（十六日夕刊）

休刊　大祭　第一　第三日曜
定價　〔壹部二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢〕
廣告料　〔一行平均二錢推定廿錢堪〕
發行兼編輯印刷人　福島縣平町田町拾六　蓼賀冠　龍輔
發行所　磐城新聞社

或る日曜（上）

平三　川田一郎

眞一は久しぶりで何の豫定もない日曜を迎へたのであつた

彼はT町に來てから隨分忙はしい日が續いてゐる、それがみんな人のため努めのためで彼自身のために生きる日は殆どない、日曜なども一ケ月前位から豫定が出來てゐて彼の自由にはならなかつた、日曜だけは自分の身体でありたいと長い間望んで居たがそれは中々實現しなかつた

さうしたところに不思議に何の豫定もない日曜が見舞つたのである、眞一は床の中でその事を考へてノビ〳〵した氣持になつて珍らしく九時過ぎになつても起き樣としなかつた

さうしてゐる時に偶然S町に行かうといふ氣になつた、それは眞に偶然であつたがいろ〳〵考へてゐる中にもうすつかりS町に行く氣になつてゐた

S町といふのは眞一の現在往んでゐるT町から汽車で一時間半の道程のところである

S町には眞一の遠縁にあたる、Kといふ女が居るのだ眞一はKとは二十年以上遭つてゐない

Kの兩親は眞一の郷里から五里ばかり距つてゐるA町の郊外に農業を營んでゐたのであつた、Kはその長女であつた彼女はその當時今日の所謂モダンであつたらしい、女の十四五才の頃であつたと思ふが勘當の樣な形で眞一の生れた家に預けられてゐたのだそしてその時四つか五つの眞一はよく彼女にお守をされたのであつた、眞一は彼女に背負はれてゐながら男の子等と勇敢に遊んでゐる彼女を見てゐたものであつた

然かしKは眞一に對しては極めて親切であつた普通の鬼守と小供といふ關係で

然なる、肉親　約

か或は親の子に對する樣な絶對の愛と權威とを持て接事して呉れたのであつた

祖母に甘やかされて我が儘一杯に育つた眞一もKに對しては極めて從順であつた田舍の事でその當時理髮店などはなかつたので髮が伸びると剃刀でクリ〳〵坊主にされるのであつたが眞一は何時もそれを嫌つて駄々をえねたものであつた、けれどもKが手傳つて呉れると痛いのをジッと辛棒して素直に剃らせたのであつた

何年位或は幾月位Kは眞一の家に居たかはつきり判らないが或る時ケイは眞一の祖母の前に呼び出されてひどく叱責されてゐたのを眞一は記憶してゐる、何うゝ事情があつたのかは勿論知つてないが祖母の興奮した親は今でもはつきり思ひ浮べる事が出來る、その中にケイは眞一の家から姿を消して仕舞つた、歸されたのか或は自分で歸つたのかそれもはつきりしない

その後眞一は中學校の試驗を受けるためにA市に赴たときケイの家に立ち寄つた事があつた

ケイはその時出戻りであつたらしい中學校の試驗を受ける程になつた眞一ケまだ彼女の背に負はれた四五才當時と全く同樣な態度を愛撫とを持つて接して呉れたのであつた

そして歸る時に當時の眞一にとつては可成多額な金を與へられた、その時眞一の靴は至つて寂しくなつてゐたと思ふが勘當の樣なので非常に嬉しかつたそのために眞一は又A市に戻つて彼の日頃欲しいと思つてゐたのを思ふ存分買ひ込んで歸つたのであつた

一疵光は淡く三人の膝にすべる、梶原は梶本の指を一本づゝ開いてやつとの事、白刃をもぎ取つてから。ぴたりとその前に手をついた

『大將すまなかつた、俺が惡い全くこの梶原の馬鹿野郎が料簡違ひをしたのだ眞盥梅であつて見れば最早や抗戰する餘地がなからう』

といふ軟派の議論が多數を占めて遂に謹慎する事に決した。で軍艦齋藤達吉が軍使となつて（中野悟一）官軍の司令部に此事を申込むと『謹慎などは罷り成らん迷に降伏しろ』と鼻息荒くはねつけた、そこで議論は再び沸騰してかち原の如きはソレ見ろとばかりに怒鳴り立て掴み合にもなりさうな權幕であつたが大鳥圭介の仲裁で『重立ちたる者だけは降伏其の餘の者は謹慎』といふ事に名儀を變へて更に申込む事になつた

は『官軍に對して謹慎すべきか又は抵抗を繼續すべきか』といふ重大な問題であつたが鬼かち原を始め彰義隊、衝鋒隊の士官等は勿論死守説を唱へて大いに爭つたけれども『梶本もあんなに惡い』といふ軟派の議論が多數

（234）渡邊默禪作　宮野歌春畫

「ゴレ大將、な、何をせるンお前さんが死んぢまつた濟まねね、コオ大將具平御

講談　紅白試合

らあ、おとにのこつた一千兩なすつてお呉んなせえこたらずの同志の者が、どこ此の通りあやまるあやまるどうするんだ、ここ殺してなるものか、殺しはしねえ殺しはしねね、死になけりやこの梶原を打つた斬つてそそれから死んでくれ……おれ塚さん痛からうが我慢をしてくれとと德川さまの爲だぞッ」

妙にどもつてわなゝいて濕つた聲だ

「あ、梶原かいいところへ……」

大塚は苦しげに息をつい、板本に冷かにその顏ふりかへつた、窓に入る月の者は悉く出席した。議案

榎本は默然として聞いてゐたが、

『かち原、俺の本心が解つたか……可愛奴だ大塚氏御免』

ごろりと肱枕、月を仰いで、寢轉んだ。

榎本の切腹騷ぎが動機になつて、その夜の中に將校會議が開かれた、杉平太郎大鳥圭介の二人が議長で一緒の指揮役たる資格を有す

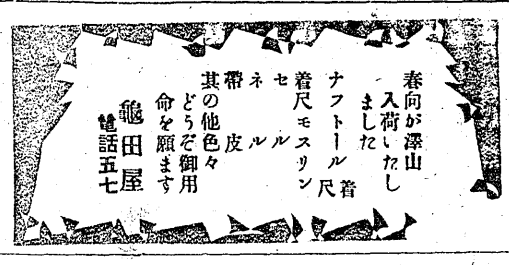
他に手を出さず守をべし▲

▲一白　ほこり奢りを戒め

▲四緑　明日　曆月　四五
　　曆月　十七
　　舊九日　新七日

吉の凶

▲五黃　一日の平和を祈り餘命を一杯に手出しすべからず▲三碧　勇氣を落さず進むに專一なれば好結果あり▲四綠　外仕事は苦しみ多けれども內には利得ある日▲五黃　これと云ふ苦は無くとも心重々しく感ずる日▲六白　運氣頂點に達する日但し油斷なきやう注意▲七赤　外に向つて十分に手腕を伸ばすによき日なり▲八白　妄動して不利を招くよりも安息するが無事▲九紫　幸福なる日にして求めぬ利得まで入込むべし



廣告

吉田眼科醫院

定價一週分九〇　二週分一、七〇　三週分二、五〇
動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す
……是非御試用を勸む……
平町五丁目角
代理店　山野邊藥局

アイギ

こんど仕入れた正札堂のアイギの安賣り見て御座れ
いつも安いと御客の聲を早う聞きたい正札堂
一、雨の降る日にやゴム引マント　どんな嵐もなんのその
一、生地の自慢は黑セル茶セル　それに連添ふレンコート
一、早賣り安値はいつもの主義よ　角力に負けない豐富山

正札堂

英傑秀吉連日滿員　謝恩週間
◇十六日ヨリ八日間
◇日活瀧花久子主演　事故の爲本週に繰延ました事を御詫致ます
作品
ジャズ曲映畫　沙漠に陽が落ちて　全
アラビヤの唄　獨唱……島津正之　說明……若月柯村

◇松竹提供映畫　市川右太工門主演　助演高堂國典、吉野露子
維新血史　高杉晉作　全
明治維新の騷然たる世相を寫し英傑の面目躍如として彷彿たり（說明泉天明）

◇日活超大作映畫◇　河部五郎、酒井米子主演
捕物覺書　八百藏吉　全
河部五郎映畫界引退最後の大作
助演　葛木香一、尾上桃華、高勢實、花柳あやめ（說明石井孝）

爲謝恩　普通席金十錢
日活松竹映畫封切　平館

平町紺屋町　吉田眼科醫院

貸切自動車の御用命は昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い昭和タクシー
平驛前
電話は三四三番

開店披露
御手輕御料理
美味と廉價が自慢
平町新田町（先鳥勇跡）
御料理喜樂

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾　市原三三男
皮膚病
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）　電話一一四番

中堅農民講習會の具体案決定

五月から十二月に亘り 實地月割と課目

石城郡農會主催になる石城中堅農民養成講習會は既報の如くであるが現地講習は次の如く決定した

(五月泉村)蔬菜栽培メロン温室栽培農業經營狀態

(六月大浦村)農業倉庫、信用組合、繭市場、農會經營、狀態

(七月平窪村)果樹、蔬菜栽培狀態並に組合活動狀態

(八月神谷村)飯野村農學試驗場、石城分場蔬菜實行組合

(九月勿來町)養鶏組合、農會活動狀態、産業組合

(十月錦村)普通作物、農學實行組合、養鶏組合

(十一月仙臺市)官城縣農會主催東北六縣北海道農會聯合園藝共進會視察

(十二月平町)宮公署、農會、役場、區裁判所、養鶏場、水道部、片倉製糸工場

(一月場所未定)堆肥製造

の實習其の他

講習生は十六日から平町元郡役所内郡農會學務所にて募集受付を爲したが次の各村から五十名申出て來たが猶續々と申込みある見込みである因に講習生の連續講習は九月(十日内外)二月(二十日間内外)の農閑期を利用して連續的に農業の基本的必須學科を受講せしむるもので講師は

縣農務課技術官、縣農學試驗場技術官、縣農會技術官、郡養蠶同業組合技術員、郡産馬畜産組合郡農會技術員

遞信講習生

平局で募集試驗

仙臺遞信講習所では今回講習生を募集して居るが遞信部外からの應募資格は本年七月一日に於て十四歳以上滿十八歳以下の男子たること又入學試驗は高等小學校卒業程度で人物考査學科試驗甲種合格となり常籤した者は現役兵として國防の第一線に起つべき重大な責任を擔ふべきことは一般に覺悟してゐるところであるが補十八圓の手當を支給し學用品の大體は給與若は貸與され且つ寄宿舍の設備もあり修業年限は一ヶ年で卒業迄には遞信業務の普通學を授け卒業後は直に遞信部内に奉職し將來官吏として發展の途は充分ある尚ほ卒業後三ヶ年の義務年限(但し私費生と云つて在學中手當を受けざる者の義務年限は一ヶ年)がある志願者は五月二十日迄に自筆の履歴書を仙臺遞信講習所へ提出すべしと

小名測候所 昇格

商港記念事業に

石城郡小名濱町にたげる測候所支所は既報した如く一応協議した

益々多忙を極める 平署の兵事々務

補充兵も充分の覺悟を

兵事當局は語る

平警察署の兵事事務は昨今充兵役國民兵役に編入され懲兵檢査並に點呼を前に多忙を極めてゐるが當局の談る所によると懲兵檢査の結果甲種合格となり常籤した者は現役兵として國防の第一線に起つべき重大な責任を擔ふべきことは一般に覺悟してゐるところであるが補充兵役に編入される者は義務發覺意急が甚だ薄弱で甚だしきは全然兵役に忙を極めてゐるが當局の談の如く涼淡なる所によると懲兵檢査の結果甲種合格となり常籤した者がある兵役稅などノ論じられてゐる今日大いに自覺を擔ふべきことは一般に覺悟してゐるところであるが補充兵役に服すべき者の心得として支所に過ぎず種々の不便を感じて來たが同町では商港といて大貨物船がどし〳〵入港する曉まで福島測候所の一支所として置くことは不便極まるものであるとなしいよ〳〵同測候所の昇格運動を商港記念事業として起すことゝなつたが昇格に遠しては小名濱町で敷地を更に寄附する由であるから縣會の承認を得さへすれば五年度邊りに實現する可能性は充分あるものと見られてゐる

平土木委員會　平土木委員會は十五日午前十時から水道部に開會片倉製糸への給水設備その他について協議した

石城郡下各町村の産業技術員會

けふ舊郡衛會議室に於て

諮問と提出事項

△指示事項

一、地力擔任農業技術員と産業技術員との連繫に關する件

二、産業技術員設置季勵規定の件

三、副業季勵に關する件

△注意事項

一、産業技術員の職務に關する件

二、肥料、園藝、緬羊奬勵技術員設置

三、農業倉庫に關する件

四、養蚕奬勵に關する件

五、馬匹去勢屆出に關する件

六、内地櫻桃葉蚜防除に關する件

(穀物檢査所提出)

一、從來に於ける檢査事業の實績に鑑み新に施設奬勵すべき事項如何

(農事試驗場提出)

一、水稻品種分布調査に關する件

二、新原種配付に關する件

三、陸稻栽培奬勵に關する件

四、緑肥施用法の改善に關する件　以上

石城郡内に於ける町村産業技師員勤業主任協議會は十六日午前十時より平町元郡役所會議室に於て開催した提出事項左の如し

△諮問事項

一、農業經營改善上特に縣及關係機關に要望する事項

△協議事項

一、農家實地指導の効果を一層大ならしむる良治如何

被害は苗代にも

昨今の氣狂ひ天候で

郡農會當局憂慮

當り二三十日の草木灰をふることも稻熱病を防ぐ手近な方法である

巡回蠶業講話　石城養蠶同業組合主催巡回蠶業講話は十六日午後一時より永戸組合村役場に於て開催した講師は同組合新任栗田技手である

石城地方では數日來打續く冷氣に桑の發育が不充分の爲め春蠶飼養に脅威を與へてゐるばかりでなく最初の發芽狀態が非常によかつた水稻苗代にも惡い結果を見せ斯る不順な氣溫が今後なほ繼續されれば早苗の腐敗病を憂慮されるので縣農試石城分場からも夫々注意を出された模樣であるが右に就て神尾駐在農林技師は左記の如く語る

斯んな天候では苗代は確かに不安である腐敗病等の被害防止には天候がよくなり次第水をひいて苗代面に乾を行ふ一方には三斗式ボールドー液を苗代面に撒布するのがよい芽乾は苗を丈夫に仕立てる爲めで尚ほ病氣がなくとも坪

幼女を救ふ

忠衛君を表彰

平町新川町桑谷庄太郎長女よし(五)子は去る十三日午後二時頃同町地内愛谷堰附近で遊戯中誤つて同堰に轉落溺死せんとしてゐたのを道行中の同町研町大沼忠衛(三)が發見これを救助した

小兒を毆る

父から告訴さる

石城郡内郷村字御厩木貫宿山田喜平は去月二十一日午後五時ごろボール投げをしてゐた同村上田平藏五男力三(六)があやまつて隣家にボールを投げ込んだのに憤慨し力三を散々毆打し二週間の傷害を與へたのでこの程平藏は山田を相手取り平署に傷害の告訴をなした

もぐり桂庵

平署で退治

石城郡下各地に亘つて最近無免許で人事周旋を爲す潜り桂庵が盛んに横行し甘言を以て無智な山村の息子や娘さん達を引張り出し女中奉行をさせると稱しては酌婦や娼妓に賣り飛ばす等の不良を働いて善良な人々を泣かせてゐるので平警察署では捨て置けずとあつて近く管内全部に亘つて此れ等の潜り周旋業者を根こそぎ狩出すべく計劃中である

一毛作品評

平町外五ヶ村で

平町、草野村、大浦村、神谷村、好間村、飯野村一町五箇村の二毛作品評會は來る二十六日から三十日まで五日間各町村に於て開催することになりそれ〳〵準備を進めて居るが出品點數は一町村二十五點である尚會期中に審査をなし成績優良者にはそれ〳〵褒賞を授與する由である

大臣を通す 道普請

平監督所急ぐ

小名濱町商港起工式の二十二日は田中首相始め各大臣を招待することになつたので同町では全力を擧げて祝賀準備に多忙を極めて居るが平土木監督所では今日朝野の名士が列席するため折角來郡するのに從來のまゝの惡道を通行せしむることは遺憾であると云ふところから泉、小名濱間、湯本、平、江名、小名濱間全路線に亘つて大改修に着手した

木炭實物指導

早川組合長以下が

濱三郡木炭同業組合早川組合長草野副組長江尻理事は十六日午前十一時より川前村使屋方に於て木炭等級檢査に關する講演をなし終つて木炭の實物に就き實地指導をなした

小林巡査昇級

平警察署特務小林己之秋巡査は郡山警察署巡査部長に榮轉十七日午前九時二十五分に平驛發赴任する

平町會選擧候補者正式届出 廿七名

競爭なしに選擧出來るか

撓倖を夢と候補者

平町會議員選擧は剩す處正丁目まゝの本通りは町内の昧々三日の後に接迫した今結束を見せる体面上からも十六日は暦の上の大安日と一名の候補者は立てなければあつて正式届出をなしたもばならぬとして物色交渉中の九名あり前後通じての立て遲かれ早かれ決定するも候補者は二十七名を猶ほ定いと員に三名の不定を告げてゐる、即ち未だ候補者の決定してゐない町内は

一、二、三、四の各本通りと新川町との五ヶ町内であるが鐵道官舍よりも現業員中一名の候補者を出すべく有力者間に奔走中の由で

右の各町内が一名づゝを立候補すると仮なれば合計三十三名となり貧乏籤を引く者は僅か三名に止まる現狀であるが、而して一丁目より四町會議員選擧は剩す處正丁目まゝの本通りは町内の昧々三日の後に接迫した今結束を見せる体面上からも十六日は暦の上の大安日と一名の候補者は立てなければあつて正式届出をなしたもばならぬとして物色交渉中の九名あり前後通じての立て遲かれ早かれ決定するも候補者は二十七名を猶ほ定いと員に三名の不定を告げてゐる、即ち未だ候補者の決定してゐない町内は

一、二、三、四の各本通りと新川町との五ヶ町内であるが鐵道官舍よりも現業員中一名の候補者を出すべく有力者間に奔走中の由で

右の各町内が一名づゝを立候補すると仮なれば合計三十三名となり貧乏籤を引く者は僅か三名に止まる現狀であるが、而して一丁目より四

想像され

るが新川町

は諸橋國松、吉田定太郎兩氏の内誰れなり出馬せぬ以上可成り候補難に陥りたる現狀から見て或は定員三十名の立候補で存外樂に當選出來るではないかと虫のよい候補者連は早くも僥倖を夢みてゐるが流石選擧騒ぎの猛烈な平町に於て斯かる

大平樂の

選擧が來る

ものとも思はれず各候補と互に腹の探り合ひに止まつてゐたが今日以後は敵と見る可き大体の顔觸れも決した事とて愈々本舞臺に入らんとし物凄き戰端に移らんとしてゐるものの如くである

猶ほ未決定町内の模樣を聞くと一丁目は坂本隆藏二丁目は關内正一、三丁目は三森虎雄、四丁目は猪狩庄平氏が、鈴木長三郎、新川町は吉田諸橋氏の外武田元之助の三氏に白羽の矢が立てられ何れも交渉中である

關内氏決意

二丁目候補決定

二丁目は丹野榮三郎氏固辭して受けぬ爲め愈々候補難に陥つたが關内正一氏を公認し交渉の結果同氏の承諾を得事町一致氏の當選を期する事となつた

町議選擧で 區長辭任

町役場面喰ふ

平町々會議員選擧も追々切迫して來たので選擧氣分は可成濃厚となり内部にける運動は頗る猛烈を極め立候補の意思ある者でも互に立候補者の顔觸れに依つて自分への投票數を計算して後正式出馬の名乘りを擧げると云ふ狀態であるなほ各區に勢力を有する區長にも立て立候補をするものもあり或ひは候補者の參謀をするものもある爲役場當局に毎日區長の辭職届けを提出する者が增加し去る十四日までに提出した區長は十名の爲あつたこと此程發覺平警多きに達したゝめ各區長の活動を見るに至つたもの行政區長の欠員が出來た關らしい

選擧違反

係上行政事務にまで影響したので役場當局でも弱てる

石城郡地方に於ける町村會議員戰擧戰は愈々期日の切迫につれて隨所に可成りの激戰を演じてゐるが萬一の場合を考慮して警戒に努めると云ふ狀態であるなほ各區に勢力を有する區長にも對して一大活動を開始した同署が此活動を開始したのは仄聞するに過般郡下に於ける第一回の選擧戰たる鹿島村の村議戰に當り違犯行者が增加し去る十四日まで

平町會議員 候補者一覽

本日迄の届出分

平町會議員候補者として本日迄で平署に正式届出をなした者の氏名、職業並に選擧事務長左の如し

候補者	年令	職業	選擧事務長
字佐美友二郎	(三三)	藥劑師	同　人
野崎滿藏	(四九)	蕊妓屋	吉田廣三郎
柳下元吉	(五一)	製板業	未　定
石山治三郎	(五〇)	建具商	櫛田榮太郎
馬目雅治	(三四)	凍氷販賣業	金子政道
根本品藏	(四四)	米穀商	佐藤源五郎
吉田寅之輔	(四三)	縫紋業	長谷川伊左工門
吉村安次郎	(四三)	製綿業	屋島龍輔
吉田五平	(五三)	材木商	堀喜一
千葉彦治	(三九)	辯護士	酒井喜代正
荒川淺次郎	(四六)	建具商	未　定
佐藤岩次郎	(五五)	雜貨商	未　定
荒川恒次郎	(五一)	米穀商	青木甚平
齋藤敏實	(四八)	凍氷販賣業	未　定
花澤兎五六	(六〇)	農業	叶多鉾治
加納五郎	(六三)	實業	未　定
佐々木健一郎	(五七)	請負業	前澤文太郎
櫻井清	(四四)	物品販賣業	同　人
國府田直良	(四〇)	蕊妓屋	吉田伴吉
高橋龜松	(五〇)	石炭販賣業	宮崎善太郎
大森勇	(四五)	醫師	未　定
青沼鋒太郎	(六三)	實業	未　定
緑川喜三郎	(三九)	鋸製造業	石川武八
萩原義雄	(四一)	齒科醫師	近藤繁治
遠藤林松	(六二)	飲食店	酒井廣吉
佐々木龍若	(四九)	銀行員	未　定
鈴木光吉	(五五)	小學校教員	未　定

時評

平町會候補者、ことに依ると定員に充たぬかも知れぬ。

□

之れを聞いた熊公と八公オイどうだい、俺れ等も町會議員になろうでネイカ

□

入梅を待たで天すでに梅雨に入る、鬱しさ限り無し

◉診療開始
耳鼻咽喉科專門
日本醫大醫學士院長　鈴木正男
齒科口腔外科
日本齒科醫學士科長　高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋 ㊏ 釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊏の生命なり

平町田町
高久病院
電話五〇三番
醫學士高久忠
新潟醫學士赤羽清
榮南士佐竹菊雄
内科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

内科、小兒科、花柳病科　入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

父治郎平儀
豫て病氣中の處養生不相叶五月十五日午前一時死去致候間此段乍略儀紙上を以て御通知申上候
追而葬儀は十七日午後二時自宅出棺執行仕る可く候
五月十五日
石城郡高久村
親戚代　男　鈴木源藏
友人代　矢吹豊
總代　鈴木辰三郎